

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2694000049		
法人名	メディカル・ケア・サービス関西株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム京都洛西(ひまわり)		
所在地	京都市西京区大枝東長町1-68		
自己評価作成日	令和元年11月10日	評価結果市町村受理日	令和2年2月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhou_detail_022_kaniztrue&amp;JivvosvcId=2694000049-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhou_detail_022_kaniztrue&amp;JivvosvcId=2694000049-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	令和元年12月11日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

愛の家グループホーム京都洛西では、ご入居者様に自宅に居られた時と同じような環境で過ごしていただき、できることを妨げず、いつまでも行いたいことができるように支援しています。ホーム独自の理念として「誰もが居心地の良い暖かいほーむである。」を掲げています。入居者様の生活を支えることを第一に考えた上で、支援する側と支援される側に分けるのではなく、入居者様と職員がお互いに助け合いながら日常を過ごすことでお互いに笑顔になれる、お互いに快い気持ちになれるとの思いを込めています。今年度は昨年よりも自治会との連携を図ることができ、地域の一人として入居者様と様々なイベントに参加したり、防災関係でも協力関係を築くことができました。職員同士も大変仲が良く、助け合いながら入居者様の事を第一に考え、入居者様の喜びを職員自身の喜びとして生活支援をおこなっております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは月に1~2回は利用者が楽しめるイベントを企画し、広い庭も活用しながら夏場のビアガーデンやバーベキュー、秋祭りなど庭で行う行事も多く、日頃から来訪の多い家族や地域の方を招き交流を図っています。また日々の食事にも力を入れ、利用者の声を聴きホームでラーメン屋やお好み焼き屋などを行ったり、流し素麺や大根炊きなどの他、おやつにチョコフォンデュをするなど日々食べる事を楽しめるような支援をしています。職員は「誰もが居心地の良い暖かいほーむである」と掲げた理念を基に一人ひとりの思いを大切に、利用者が自宅と同じように寛ぎ、家庭的な雰囲気の中で安心して過ごせるようなホーム作りを目指しています。また本人や家族の意向を大切に往診医や訪問看護師と連携を図り、意向に添った看取り支援にも取り組んでいます。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼にて運営理念・ビジョンを唱和し、共有しています。	法人の運営理念やビジョンを踏まえて作成したホーム理念を事務所内に掲示し、年度初めには理念をわかりやすく職員に説明しグループホームとしての具体的な方向性を示しています。更に毎年フロア毎の目標を作成し実践に向けて取り組み、年度末にはフロア目標について話し合いながら実践状況を振り返り確認しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会し、地域の学校の校外学習の受け入れるなど地域との関わりを持っています。	自治会に加入し回覧板が届き地域の行事の情報を得て地域の掃除の日は利用者と一緒にホーム周辺を掃除しています。ホームでは秋祭りやハロウィンなどの行事が多く、掲示等で地域の方に案内し毎回親子連れなどの参加を得て開催し交流を楽しんでいます。また中学生の福祉体験を受け入れたり、近隣施設とは祭りなどの行事に互いに参加し交流しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	来訪されたときや 問い合わせの電話、学生の受け入れ等 随時相談にのっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会会長、社会福祉協議会、民生委員、地域包括、福祉施設等様々な方にご出席いただきホームでの取り組み等話し合いサービスの向上につなげています。	会議は利用者や民生委員、社会福祉協議会関係者、他施設職員、年に数回は家族の参加を得て開催しホームの現状や行事の予定と報告、事故や身体拘束に関する取り組み、農園の状況などを報告し意見交換しています。参加者の意見を受けてホームの行事を地域の方が誰でも参加できる事がわかるようホーム入り口に案内を掲示し参加を得るなど地域交流に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議後は必ず、議事録を洛西支所に提出に行き、疑問点等は相談しています。	分からない事は区役所へ出向いた際や電話等で問い合わせ、集団指導への出席や定期的に行われる市や区の連絡会や講習会に参加し、アドバイスを得たり情報を交換しています。また感染症の注意喚起のポスター等も届きホーム内に掲示しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や指導を行い スタッフに周知しています。	入職時には身体拘束について個別に指導し、その後は3ヶ月毎にチェック表を用いてケアを振り返り、年に1度は管理者が改めてチェックし職員への浸透に努めています。また身体拘束委員会では薬や言葉による行動の制止等について話し合ったり、本社からも注意喚起が届いています。夜間と事務所不在時以外は玄関を施錠せず自由に入力できるよう見守っています。また安全に付き添う為のセンサーについては会議時に必要性を検討しています。	

愛の家グループホーム京都洛西(ひまわり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケアの中でスタッフ同士注意し合ったり、社内研修・指導で防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を受けておられる方がいらっしゃる、運営推進会議に司法書士の方も参加下さり、内容についても学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書を読み合わせ、都度質問あれば答えるようにして、ご家族様の理解・納得を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1度、家族アンケートを実施し要望・意見に対して取り組みを行い運営に反映させています。	利用者の希望は関わりの中で聴き、食べたい物を献立に取り入れたり、行きたい場所への外出などに繋げています。家族へは担当者が毎月手紙で様子を伝えたり、日頃から来訪も多く話しやすい関係を築き直接聞いたり、年に1度アンケート調査も行っています。家族からは様々な意見が出されており、体操の機会を増やしたり、家族参加型の行事の開催や洗濯物の間違いについては名前を付けるなどの対策に繋げています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のケアの中での職員の意見やフロアごとのカンファレンス等で提案や意見を聞き運営に反映させている。	毎月のフロア会議は職員から意見を募って議題を決め話し合ったり、日々業務の中でも随時職員間で意見交換しています。決まった内容は申し送りノートや活用しているグループラインに記載し、職員間の情報共有や意見交換の場にもなっています。管理者は職員の様子を見ながら声をかけ話を聞いたり、毎年本社によるアンケート調査も行われ働きやすい環境整備等に反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、職員アンケートや表彰等様々なコンテストを行い職員のモチベーションアップに繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	関西既存のホーム内で各力量に合わせ計画を立て研修を行ったり 社内資料にて毎月1度研修を実施したり 外部の研修にも参加を促している。様々な資格習得支援も行っている。		

愛の家グループホーム京都洛西(ひまわり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の他事業所への挨拶回りや、イベントへの参加などでネットワークを築いたり推進委員会でも参加頂いたりして交流し情報こうかんしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント時、希望や不安等を聞かせて頂き、信頼関係構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント時、ご入居者様と共に家族様の不安や希望を出来るだけお伺いし、信頼関係の構築につとめています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、家族様と入居前にしっかりと話し合いを行い、ご希望に対してその方のためにならないと判断した場合は、相談し他サービスについても話し合いを行うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存能力を活かし出来ないことのみお手伝いさせていただくようにしている。また、様々な事を教えて頂いたりして相互関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何か困りごとや助けて欲しいこと等があれば、家族様に相談させて頂いてる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様との話の中で出てきた馴染みの人の話をご家族様に伝えて支援していただいたり、住んでおられた場所に散歩やドライブに行ったりしている。	友人や親せきなどの来訪時は居室やリビング、テーブルと椅子が置かれた階段フロアや気候の良い時期は庭のテーブルなど希望を聞きながらゆっくり過ごせるよう配慮をしています。職員が付き添い馴染みのデパートやドライブを兼ねて自宅付近を通ったり、自宅に戻り家族とゆっくり過ごす方もいます。また親戚に年賀状を出す方もおり、家族が葉書を用意し職員と一緒に投函に行くなどの支援をしています。	

愛の家グループホーム京都洛西(ひまわり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士で助け合ったり(家事など)状況に応じて入居者様同士が関わりあえるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族様と連絡を取り、ホームのイベントなどに参加していただいている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時にホーム独自のアセスメントを用い、本人の意向の把握に努めており、センター方式の一部も使用している。	入居に向けては病院や施設、自宅などを訪問し、家族から生活歴や意向などを聞き、これまで関わりのあった事業所からの情報などを基に意向の把握に繋がっています。入居後は本人の言葉や普段と変わった様子などの職員が気付いた事柄を申し送りノートに記入し共有したり、把握が困難な場合は家族から昔の話などを聞きカンファレンスで話し合い思いの把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	最初にアセスメントを取りますが、生活している中で気付いたこと・ご本人様が語ったことやご家族様に伺ったことなどを追記し把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活を送っている中で、常に状態観察を行い、把握に努め申し送りも行き、職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、担当ごとにモニタリングを行い、サービス担当者会議を開き、介護計画を作成している。	介護計画作成時は基本的には家族の参加を得てサービス担当者会議を開き共に必要な支援を話し合い作成し、参加できない家族には事前に意向を確認しています。毎月担当職員がモニタリングを行い変化の無い場合は3ヶ月毎に計画の実施状況を確認し見直しています。また6ヶ月毎に再アセスメントを行い、必要に応じて往診医や訪問看護師の意見を反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護計画を作成し、申し送りを詳細に行い、情報共有しながら実践したり、介護計画を作成している。		

愛の家グループホーム京都洛西(ひまわり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人が望むことをできるだけ支援できるように取り組んでいる。状況に応じてご家族様にも協力をお願いしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の会合に出席したことで、地域の様々な取り組みに参加することができている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回、往診医に来て頂いており、緊急時も24時間医師の指示を受けることができている。週1回看護師が勤務し、受診介助や医療連携をおこなっている。	入居時に24時間対応が可能な協力医への変更を依頼し、全利用者が協力医による2週間に1度の往診を受けています。体調変化時は協力医に連絡を取り指示を得たり、随時の往診や協力医の訪問看護師に来てもらう事もあります。協力医の指示で専門医を受診の際は紹介状を書いてもらい家族と共に受診し報告も受けています。必要や希望に応じて訪問歯科による口腔ケアや治療、訪問マッサージを受ける方もいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携記録に看護師が情報や往診内容を記録し、スタッフも気付いたことを記入したり口頭で伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際に病院関係者との情報交換や相談に努めている。緊急時は往診医が病院への働きかけもしてくださっている。毎月病院への挨拶まわりもおこなっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様との契約の段階で、重度化や終末期に向けた方針の話し合いをおこなっている。ホームとして看取りに向けた話し合いをおこなっている。	契約時に看取りに関する指針を基に対応できる事やできない事を含め説明し、重度化した場合は医師から家族へ説明が行われ今後の方針を話し合っています。支援を行う際は医師の随時の往診や体調が変化した際は必ず訪問看護師に来てもらい助言や指示をもらい、家族は面会を増やし泊まり込む等一緒に過ごす時間を増やし家族と共に支援しています。看取りに関する研修の実施や支援後は振り返る機会を持っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生法やAED講習を受講済みであり、新人職員に対しても、消防署の救急講習受講を促している。		

愛の家グループホーム京都洛西(ひまわり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練にて訓練を受けている。全職員が緊急時の避難場所も把握している。災害時の自治会との連携も取れている。	年に2回、消防署の立ち会いの下行う訓練では主に夜間を想定し出火場所を替えながら通報や参加できる利用者の避難誘導、水消火器の使用方法等を行っています。また市の地震等に関する一斉メールを受診した際は利用者と机の下に避難したり、新たに自治会に災害時の協力を依頼しています。水や食料の備蓄の他、不燃の防空頭巾やランタン、カセットコンロ等を準備しています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から職員間で注意しあいながら、人権の尊重や自尊心に配慮した言葉掛けをおこなっている。	年に2回、個々のスマートフォンでウェブ研修を受け、管理者が時に職員に聞き確認したり、利用者の尊厳を守る対応について伝え、定期的に不適切ケアチェック表で個々に振り返っています。職員との関係性も含めて一人ひとりに合った分りやすい呼称などに変更する場合は全職員で検討し家族の了承を得るようにしています。入浴や排泄介助時の羞恥心のある方への配慮をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアの中で、入居者様ご本人がおこないたい事を実施できるように、随時声掛けなどの働きかけをおこなっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりが居室で過ごしたり、リビングでテレビを見たり、歌を唄ったり、家事をしたりと、ご本人のペースで過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時、「今日はどの服にしましょうか？」と伺い選んでいただいています。装飾品のお好きな方は毎日身に付けておられます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日、食事の材料を切ったり、皮を剥いたり、お盆の用意や後片付けなどもさせていただいています。おやつ作りなども一緒におこなっています。	本社から届く献立を京都風や利用者の好みにアレンジし、利用者には皮むき等に携わってもらい調理し、日々職員と共に食事を摂っています。毎月家族との食事の機会作りや「ご馳走の日」を設けウナギや寿司を献立にしたり、ラーメンやお好み焼き等を飲食店風にしたりと、庭でビアガーデンやバーベキュー等を時には家族や地域の方も招き楽しんでいます。また近所から届いたり、ホームの農園で収穫した多くの野菜や果物も食卓に上がっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量などを記録に残し、体重やその方の状態に応じて食事量などを調整し支援している。		

愛の家グループホーム京都洛西(ひまわり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアをおこなってもらえるよう声掛けを行い、実施していただいている。週1回の歯科往診にて口腔状態も診ていただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、表情や仕草等を観察し自尊心に配慮しながら声掛けおこない、トイレ誘導を行うことで自立に向けた支援をおこなっている。	24時間排泄チェックを行い個々の排泄リズムを把握し、サインなども見ながらトイレで排泄ができるよう支援をしています。一人ひとりに合った支援の方法や排泄用品、ポータブルトイレの必要性などを日々の申し送り時などに話し合い職員間で共有しています。日中の失敗が減ったり、ポータブルトイレが不要になった方も複数おり、自立に向けた支援に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、ヨーグルトを摂取していただいたり、入居者様によっては食後の運動や、その入居者様にとって便秘に効くと思っておられる物を提供したりと個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本は午後入浴であるが、個々の入浴希望に合わせて柔軟に対応している。季節によっては、菖蒲湯やゆず湯等も楽しんでもいただいている。	入浴は週に2回を基本に大体の曜日を定め午後から支援していますが、希望や体調に配慮した時間帯に入れるようにしています。一人ずつ湯を入れ替え季節の柚子や菖蒲湯、入浴剤を選んでもらい個々のペースでの入浴支援となるように努めています。入浴拒否が見られる方には声掛けの工夫をし無理の無い入浴に繋げています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様に合わせて過ごしていただいております。居室でテレビを見たり、お昼寝をしたり、リビングで休まれたり、夜眠りにくい方にはコーヒー等の刺激のある飲物は午後からは控えるようにしています。就寝前にはホットドリンクを飲んでいただいたりと安眠にもつなげています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容を常に把握しており、入居者様の状態を見ながら往診医・看護師と相談しながら服薬支援に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事が得意だったり、大好きだった人には料理や掃除などをしていただいたり、食事に関しても昔から好きだった物や広告を見て欲しい物などを購入したりと個別で楽しませています。		

愛の家グループホーム京都洛西(ひまわり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出はできるだけご本人の希望に添えるよう支援しています。散歩や買物など日常的に外出しています。ホームとしてすぐに行けない場所などは、ご家族様に連絡して相談させていただいています。	年間を通して毎日外に出る事を心がけ、散歩や近隣のコンビニへの買い物、菜園で野菜の世話や収穫をしたり、玄関先にはテーブルセットやベンチがあり、昼食やおやつを食べる事も多く、利用者は自由に入出入りしています。外出を好まない方には声掛けを工夫しながら外気に触れる機会が持てるよう支援をしています。また年初には初詣や桜の花見、紅葉狩りなどに出かけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方やお金を持っていないと不安とおっしゃられる方については、ご本人で管理されています。(ご家族様了承)買物に行くとき自ら出されることもあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話のご希望があれば、掛けていただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、季節に合わせて壁紙を張り替え季節感を出している。リビングには加湿器を抗菌作用のあるソリューションウォーターを設置しています。テレビの音量にも気をつけ、定期的に窓を開け換気にも気を使っています。	玄関やフロアには毎週花を活け、和風の飾り付けや月にクリスマスツリーなどを飾り、季節感や京都らしさを大切にしています。仲の良い人同士が食卓で一緒に過ごしたり、小ぶりのテーブルを増やし、廊下の奥のベンチの他、玄関先にもテーブルセットがあり、気候の良い時期は利用者の居場所になっています。日々換気や関わられる方と一緒に掃除を行い、抗菌効果のある加湿器なども設置し清潔で快適な環境作りをしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは1人になれる場所が作りにくいですが、気の合った入居者様同士で過ごされることが多くあります。廊下の奥にはソファを設置しており、1人になれる空間となっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で使い慣れた物や大切にされていた物(お仏壇やアルバムなど)を持ち込んでいただいております。自宅と同様な環境で暮らしていただけるようにしております。	入居時に馴染みの物を持ってきてもらうよう伝え、使い慣れた寝具や筆筒、机と椅子、大切な仏壇等を持参し、利用者と家族が相談しながら配置したり、入居時に職員が自宅を訪問した際は自宅に近い環境作りの参考にしています。家族の写真や自身の書等の作品、家族が描いた絵や手紙を飾ったり、安心できるぬいぐるみ等も身近に置き穏やかに過ごせる居室となるよう配慮をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自力で歩行できて、その日の状態を判断できる方は状態に合わせて杖を持ったり、手すりを持ったりして歩行されています。判断が難しい方には、スタッフが日々の状態を観察しながら、その都度声掛けを行い、自立した生活を送れるよう支援しています。		